

ネパールの子どもにもマスク

NPO法人グラウンドワーク三島とネパール日本友好協会(山梨県大月市)は29日、「ネパールの子どもたちに届けるマスクの贈呈式」を三島市芝本町の同NPO事務所で行った。贈呈式はオンライン会議システム「Zoom(ズーム)」を利用。カトマンズ市の同協会ネパール本部のレック・ナット・ギミレ会長とビノード・ギミレ事務局長につなぎ、寄付活動の状況や現地の様子など情報交換も行った。

◇ ◇ ◇
日本側は同NPOの渡

ネパール本部とオンラインで結んで行われたマスクの贈呈式
三島市芝本町のグラウンドワーク三島事務所

GW三島と友好協会



現地の要望受け 寄付募る

辺野博専務、同協会の石ルビジネス交流会(広島岡博実会長、日本ネパール県廿日市市)の出嶋良信ク会長は「まだマスクが

活動を続けている。今回の寄贈は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、ネパール現地から、「マスクが不足している」と、提供への強い要望を受け、同NPOを中心に6

手に入らず、コロナも拡大中旬からマスクの寄付大し、非常に困っているを市民などに募つてきので助かる」と語り、渡た。マスクは手作り、市辺専務は「皆さんの善意販品、政府支給など計約によりたくさんさんのマスク6500枚が県内外から届いたほか、消毒剤やせちの命が助かるようにつけん、手袋なども寄せ配布してほしい。マスクられた。

の寄付を募る活動は今寄贈品はネパールに帰後も続けていく」と話し、国する関係者に手渡し、8月中にカトマンズ市内

同NPOは2015年の子どもたちを中心に配布された。ネパール大地震の後、同協会と共に支援

県内外から
6500枚